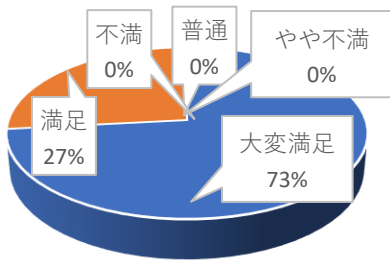
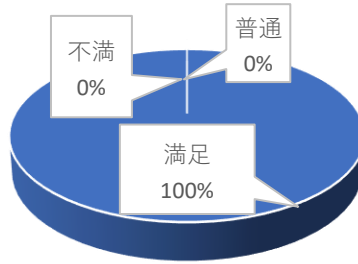


◆全体の満足度について



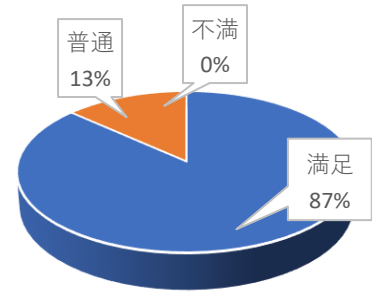
■ 大満足 ■ 満足 ■ 普通 ■ やや不満 ■ 不満

◆講義・座学／市場見学・体験



■ 満足 ■ 普通 ■ 不満

◆交流・意見交換



■ 満足 ■ 普通 ■ 不満

1. 講義・座学「京都の水産業を学ぶ」、「海洋センターにおける試験研究」などについて

京都府の漁業について学ぶことができた。

JFの取り組みの活動でも全然知らないことがあったので、知ることができた。また、ブランド製品の丹後とり貝を死滅させない為に取り組んでいることや、海洋センターさんが取り組んでる課題解決も知ることができてよかった。

すべてのプログラムとも大変興味深かった。水産センターにも講師をして頂きありがとうございました。

直面している課題や、持続可能な漁業を目指すために研究を重ねていることを学べた。

大変内容がわかりやすく、想像しながら講義を受けられました。

京都の漁業について知ることができ、京都の漁業の課題などを理解することができました。

魚の旬を考えずに今まで食べてきたので、この時期はこの魚が美味しいと少しでも目利きできるようになれそうだと感じた。

漁業関連の現状や課題について知識がなかったので、興味を持って学ぶ機会を得ることができました。ありがとうございました。

普段取り扱っている商品の背景や生産事情を知ることができ、仕事に対する理解が深まったように感じます。

近年の異常高温の影響で漁獲される魚種の変化が特に興味深く、海洋センターをはじめ、漁業に関わる方全体で対応されているのがわかりました。

今こういった活動をされていて、今後の取り組み等が知れて良かった。時間に限りがあった為、もう少し深掘りした内容や質問出来る時間があればと思いました。

漁協に勤務していますが、講義を機に知らなかった事なども学べて、良かったです。

改めて漁協が行なっている取り組みを理解できた。海洋センターで行っている、水産物の保護であったり、今漁獲される水産物をどう扱うかなどお話しいただきとても興味深い講義だった。

昨今の京都の海の課題について改めて認識することができました。持続可能な海を作るために、種苗放流や海のルールである漁業権などさまざまな取り組みや法があるということをしっかり学ぶことができました。

第25回京都府協同組合職員体験・交流学校 感想

2. 市場見学、手作り・ロープワーク体験について
楽しくちくわを作れた。また、市場を見るのは初めてだったので、良い経験になった。
市場のセリのイメージはなんとなくついてはいたが、実際のセリを見て瞬時に判断されていて素直にすごいなと思った。
セリ人自体が漁協の職員さん、とりわけ女性であったことにびっくりしました。市場の運営自体も漁協さんがされているのを初めて知りました。
生まれてからずっと京都に住んでいるが、全て初めてで貴重な体験ができた。中央卸売市場でのセリ風景は見た事があるが、それとはまた違った雰囲気、勢いを感じた。
林業でも原木の市がありますが、こちらは入札のため、違うことに驚きました。漁港ごとに入札が違うのも初めて知りました。
セリの実際の様子を拝見することができ、電子競争入札など、現代的な面を感じることができました。
ロープの結び方は日常生活でも活用できそうな場面があるので個人的にも練習してもっと身につけたいと感じた。
林業分野では、原木市場がありますが、水産分野での市場も比較でき、それぞれ市場の買方売方の関係に特徴があることに面白さや気付きがありました。
普段生協などで陳列されている商品がどのようにして市場に流れていくかの流れを実際に見学でき、貴重な体験をすることができました。
初めてのセリを見学させていただき、現場でしか感じられない空気に触れさせてもらいました。ちくわの体験もさせてもらい、いつもとは違う手作りならではの味を頂くことができました。
かまぼこ工場での体験非常に楽しかったです。
ちくわ作りは、簡単そうに見えて、魚のすり身を平らに塗るのが難しく、職員さんの経験や工夫によるものだと感じました。自分で経験することが大事だし、料理教室にも通じるものがあると思いました。ロープワークも結び方を忘れないように、家でもやってみようと思いました。
改めて舞鶴の市場を見て、電子入札の仕組みなども見ることができてとても良い見学となった。
せりの様子について、みてきたものとは違う方法のせりを見学できてとても面白かったです。また、せりにかかる魚種が変わってきたということを確認することができました。
3. 他の参加者との交流・意見交換
他の参加者と意見交換できた。
交流会で他の協同組合の方と交流ができ、一定程度話はできたが、積極性があまり自分になかったため、2日目も少し会話はしたものの、どうしてもJAグループの人と話すことが多かった。
生協さん森林組合さんと積極的に懇親がはかれました。
懇親会の席によっては一度も話さない方などもいたので、時間の関係上難しいが、交流の時間がもう少しあってもよいかと思った。
それぞれ別の視点の意見もあり、見識が広がったと思います。

第25回京都府協同組合職員体験・交流学校 感想

他業種の意見などを聞くことができ、理解を深めると同時に、改めて、自分たちの業種の課題なども再認識することができました。

各協同組合の課題や取組みが共有でき、良かったと思います。

京都生協のみならず、JAや森林組合、漁業組合といった仕事では関わることのない職種の人々と一緒に研修を行う中で、自分では持ち合わせていない視点での意見や感想を聞くことができ、貴重な体験ができたと思います。

普段触れ合えない方との交流があり、楽しく過ごさせてもらいました。

初対面と言う事もあり探りながらの会話となったが他組合の方々と話が出来知り得ない事等も聞けたりし良い交流が出来たと思う。

懇親会では、普段なかなかお会いする機会のない団体の方々と、それぞれの業務についてお話しできて、貴重な経験になりました。

講義や懇親会で他の組合の皆様と交流ができ、とても貴重な経験となった。森林組合の方ともお話しをして、木材を売る時も漁協のせりと似たようなせりをしているとお聞きして、見てみたいと感じた。

それぞれの団体でどのような活動をされているのか知る機会となり、またどのような関わりがあるのか知ることができてとても良い学びになりました。

4. 今後の業務への活用と、次回学んでみたいテーマ

今やっている業務と漁業の関わりが少なく、活用できる場面は少ないが、京都府の漁業について知識として持つておくことは必要だと思うので、忘れずに覚えておこうと思う。

京野菜振興に係る、特産物育成協議会の事務局をしており、海のブランド製品について知ることができたので、府ブランド課や産品協会と会話する時のきっかけとなる。

漁業においても温暖化が多なる影響を与えている。これは農業にも共通する部分であり、一次産業の資金ニーズは絶えないと思料する。ついては、常に農業者の課題・ニーズを把握し、農業融資を中心としたサポートをより強化していく必要があると感じた。

知り合う機会の提供は必要だと思います。このような合同研修は、今後の社会において助け合いや事業協力につながっていくと思います。

全農に勤めていることもあり農業の課題などを考えることは多いが、漁業の課題を改めて認識した。どの第一次産業も日々様々な課題に直面していることを念頭におき、消費者生産者どちらの視点からも考えることができるよう心がけたい。

国と共同で取り組む事業等は、国から声がかかるのか気になりました。森林組合が植生していると、お聞きしたので勉強します。

ロープの結び方などは、今後林業をやっていく上で活用できそうな場面がありそうだなと感じたので練習頑張ります。

個人的には農協の現場見学に興味があるので、次に参加する機会があればまた参加したいと感じた。

今回の協同組合学校は、JF様のご紹介の他、漁業全般において、関連する立場の施設等の紹介もあり、全体を通して分かりやすい学びでした。JF、府、漁業者、消費者、全てのつながりから成り立つように、他分野も同様、連携は大切だなと、つくづく思いました。

第25回京都府協同組合職員体験・交流学校 感想

今回の研修で学んだことは普段の業務では知ることはできないが、どこかで関わっていることが多いことに気づくことが出来ました。仕入れている商品がどこから、どのような人たちの手を渡って、どのような考えのなかで私たちの手元に届いているかを考え直す機会になったと思います。次回学んでみたいテーマとしては、今回は水産加工の仕事上関わることの多いテーマだったので、森林組合などの全くかかわりのないテーマも知ってみたいです。

お正月商品でブリなど海産物をこれから取り扱い、商品案内もありますので、この研修で学んだ事を活かして消費者である組合員におすすめてしていきます。

持続可能な未来のために自分も微力ながら頑張っていきたい。

今回は漁業がテーマであったので、今の漁業の課題なども海洋センター様に講義いただいたので、普及活動であったり、自分の知識の向上に役立てればと思う。森林組合さんが木材のセリのお話をされていたので、違った競り場を見るのも面白いと思いました。

今回の交流会で漁協のことを改めて学びました。どう、海の資源を守っていくのか、管理していくのかなどを考えて、自分にできることを探そうと考えている。他組合とも自然として共通している部分もあるので連携して、組合で行なっている活動を一般の方に認知していただく方法などを考えることも大切だと感じた。

漁獲量などの資料を出すことがありますが、今回の講義でそのようなデータがその後どのように活かされているのか学びました。まだまだデータの扱いは分からないことが多いですが今後も精進していきたいです。